教育出版『書道Ⅰ』（書Ⅰ ７０４）準拠シラバス

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 教科・科目 | 書道I | 学科・学年・クラス | 科　　　年次　　　組 |
| 単位数 | ２単位 | 教科書・副教材 | 書道I（書I ７０４）教育出版 |

１　講座のねらい（目標）

書道の幅広い活動をとおして、書に関する見方・考え方をはたらかせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目ざす。

（1）書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする。（「知識及び技能」の習得）

（2）書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わいとらえたりすることができるようにする。（「思考力、判断力、表現力等」の育成）

（3）主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書をとおして心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。（「学びに向かう力、人間性等」の涵養）

（1）の「知識」は単に記憶するものではなく、書の表現や鑑賞の活動をとおして実感的に理解し、汎用的なものとしていくことが大切である。また、「技能」は表現活動において、意図に基づいて構想し表現を工夫するための基礎的な技能を身につけることをねらいとしている。（2）の「思考力、判断力、表現力等」は、書のよさや美しさを直感的に受け止め、表現や鑑賞の活動の契機とすることが大切である。表現活動においては、知識や技能を得たり生かしたりしながら、自らの意図に基づいて構想して表現を工夫し、鑑賞活動においては、知識を得たり生かしたりしながら、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わいとらえたりすることができるようにすることをねらいとしている。（3）の「学びに向かう力、人間性等」は、主体的に書の表現や鑑賞の学習に取り組む態度、生涯にわたり書を愛好する心情などを示しており、（1）および（2）の資質・能力を身につけていくなかで、一体的に育成していく。

２　授業の内容と学習法

芸術科「書道Ⅰ」の内容は「表現」と「鑑賞」に大別され、両者は相互に密接な関連を図って展開し、広く書に関わる資質・能力を育成することとしている。また、書は言葉を書き記す芸術であるから、時間性や運動性をもち、書を構成する要素のはたらきによる独自の表現性を有している。また、書は視覚芸術であり、造形性や空間性を併せもっている。これらの書の特質や書の美をとらえて表現したり鑑賞したりするうえでの観点を十分に意識しながら学習を進めていく必要がある。

（1）「表現」は「漢字仮名交じりの書」「漢字の書」「仮名の書」の三つの分野から構成されている。「漢字仮名交じりの書」は、漢字仮名交じり文という日常的な表記を用いることから、芸術的な表現とともに実用的な表現も含まれており、中学校国語科書写との関連をふまえることが重要である。「漢字仮名交じりの書」では、言葉の選定、意図に基づく構想、名筆や現代の書の表現をふまえ、漢字と仮名の調和を図るとともに、表現の工夫を重ねながら作品を練り上げていく。また、「漢字の書」「仮名の書」においては、古典の名跡をもとに習う臨書活動を中心に展開していく。古典の書風を直感的にとらえつつ、用具・用材と表現効果の関わり、書体・書風と用筆・運筆との関わりを理解し、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけていくようにする。「表現」においては、意図に基づく作品の構想と表現の工夫、完成作品に至るまでの学習過程を振り返り、自己課題を確認しながら次の学習活動へと展開していくことが重要となる。

（2）「鑑賞」は表現されたものの特性、表現効果、価値などを美に対する感受性や知的理解の面から味わうことである。「書道Ⅰ」においては、書の表現の方法や形式、多様性などについて理解したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わいとらえたりしていく。生徒一人ひとりの第一印象による直感的把握を大切にし、各人が感じ取った作品や古典の印象を言葉で表現し、他者に伝えあったりする言語活動の充実を図るとともに、その書の美をもたらす根拠や価値を考えていく。また、生活や社会における書が果たしている役割についても考えていく。鑑賞にあたっては、教科書のほか、真跡・拓本・複製や印刷図版、またICTを効果的に活用して作品を提示することや、地域の文化財や美術館などを利用することで、主体的に鑑賞する姿勢を身につけるようにしていく。

３　履修上の注意点

書の表現や鑑賞の学習を進めていく上で、自らの感性をはたらかせることを大切にしたい。また、書のよさや美しさを味わいとらえ、生活や社会における文字や書、書の伝統と文化と豊かに関わっていくようにしていきたい。

「表現」における古典の臨書活動では、それぞれの古典がもつ特徴をとらえ、効果的に表現する技能を身につけていく。臨書活動にあたっては、古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解し、一枚書くごとに自己課題を見きわめながら技能を身につけていく習慣を身につけたい。

作品の制作活動においては、詩文などの言葉の選定や「今、自分は何を表現したいか」という意図を大切にしたい。自身の表現の意図に基づいて構想し、用具・用材などを積極的に選択し、表現の工夫を重ねていくことで作品を練り上げていくことが大切である。書の表現や鑑賞の幅広い活動をとおして、自らの学習の成果を実感するとともに、書を学ぶことの意義や価値を自覚し、書ならではの見方・考え方を身につけ、これからの学習や生活の中で生かすようにしたい。

４　学習計画および評価方法等

**〔1〕学習計画等**



|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 学　期 | 学習内容 | 月 | 学習のねらい | 備　考  （学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動等との関連など） | 考査範囲 |
| 一　学　期 | 書の美を求めて  書の世界へようこそ  用具・用材―文房四宝―  姿勢・執筆  古典の学び方  書を生活の中に生かしてみよう  一　漢字の書の学習  書体の変遷  拓本と碑について  拓本を採ってみよう  一　楷書の学習  １　さまざまな楷書  ２　唐の四大家  ■九成宮醴泉銘／孔子廟堂碑  ■雁塔聖教序／顔氏家廟碑  ３　北魏の書  ■牛橛造像記／鄭羲下碑  二　行書の学習  １　さまざまな行書  ■行書の特徴  ２　王羲之と顔真卿の行書  ■蘭亭序  唐の太宗と蘭亭序  ■祭姪稿  鑑賞ガイド　蘭亭序  鑑賞ガイド　祭姪稿  顔真卿の人と書  ３　日本の行書  ■風信帖  ■三筆、三跡の書  身のまわりに見られるさまざまな書 | ４ | 書道の学習を始めるにあたり、書の特質や学習の全体像を把握します。  用具・用材について理解し、姿勢や執筆法・用筆法について知り、書道の学習における基本的な事項を理解します。  小・中学校の国語科書写の学習内容を確認し、身のまわりの生活の中で見られる書について、その意義や効果について学習します。  漢字の書の学習を進めるにあたり、書体の変遷や拓本についての理解を図ります。  さまざまな楷書古典を鑑賞し、そのよさや美しさ、書風を直感的にとらえ、作品の価値や根拠について考えます。  漢字の楷書の古典に基づく学習により、書の多様な表現の可能性にふれます。  代表的な楷書古典を鑑賞し、それぞれの古典について、作者や時代背景などの知的理解を図ります。  各古典を字形の特徴と用筆・運筆との関わりからとらえ、臨書活動をとおして、意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身につけます。  さまざまな行書古典を鑑賞し、書風を直感的にとらえたうえで、行書の特徴について理解します。  代表的な行書の古典について、字形の特徴と用筆・運筆との関わりからとらえ、臨書活動をとおして、意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身につけます。  身のまわりに見られるさまざまな書にふれることをとおして、楷書や行書以外の書体についても目を向けられるようにします。 | 中学校までの書写の学習で身につけている内容を確認します。  芸術科書道と国語科書写の関連を確認します。  世界史の学習に関連します。  各自の個性を生かすことのできる古典を選択して集中的に学習します。  実用性と芸術性という行書の二つの側面を理解します。  世界史の学習に関連します。 | 一学期期末考査 |
| ５ |
| ６ |
| ７ |
| 【課題・提出物等】  １　毎時間の学習内容は「学習記録」に記録します。  ２　提出前の途中経過（制作の初期段階の作品から、意見交換した作品、完成作品など）を記録としてファイルします。  ３　単元ごとに「学習記録」とファイルをもとに「学習のまとめ」を行い、学習を振り返り自己評価します。  ４　課題に応じて作品やワークシート等を提出します。 | | | |
| 【一学期の評価方法】  １　提出作品、学習過程、「学習記録」等による学習過程、「学習のまとめ」の内容、期末考査を中心に、用具・用材の扱いを含め、主体的に学習に取り組む態度も含めて総合的に評価します。  ２　学期全体の評価は提出作品で４０％、活動の様子、「学習記録」による学習過程と「学習のまとめ」で３０％、期末考査で１５％、主体的に学習に取り組む態度１５％の配分で行います。  ３　提出作品は、導入では用筆・運筆を工夫して表現することができたか、また漢字の書については、対象となる古典の特徴を表現できたかという点が評価の規準となります。 | | | |
| 二　学　期 | 三　篆書の学習  ■泰山刻石  四　篆刻・刻字の学習  １　篆刻の学習  ２　刻字の学習  五　隷書の学習  ■曹全碑  ■居延漢簡  六　草書の学習  ■書譜  漢字の書の制作  作品の形式や用具・用材を工夫して表現してみよう  書の鑑賞形式  漢字の書の鑑賞  身のまわりの書  二　仮名の書の学習  １　仮名の世界へようこそ  ■仮名の成立と発達  ■仮名の種類  ■姿勢・執筆  ■用具・用材  ■基本的な筆使い  ■平仮名  ■変体仮名  ■連綿  ２　蓬萊切の鑑賞と臨書  ３　高野切第三種の鑑賞と臨書  ４　三色紙の鑑賞と散らし書き  ５　仮名の書の制作  ６　全体構成の工夫  ７　大字による表現と鑑賞  料紙の美  料紙を作ってみよう | ９ | 篆書、隷書、草書の学習については、生徒の特性等を考慮して学習します。また、篆刻・刻字については、生徒の興味や関心をふまえ、可能な限り扱うようにします。  篆書の学習は篆刻と関連づけて指導することで、学習の幅を広げ深めることができます。隷書については文字の点画構造が楷書に近く、双方の書体への理解が深められます。草書は「仮名の書」の学習での理解を深めることにもつながります。これらの五つの書体を扱うことで、総合的に書についての理解を深めることにつながりますが、「書道Ⅰ」では基礎的な楷書や行書の学習を充実するようにします。  漢字の書の制作では、意図に基づく構想と表現の工夫について学習していきます。  書の鑑賞形式、さまざまな漢字の書の鑑賞、身のまわりの書について理解を深めます。また、生活や社会における漢字の書の広がりにふれます。  我が国独自の仮名の書の芸術的な味わいや雰囲気を感じ取り、その成立過程や仮名の種類、字源について理解していきます。  仮名の書特有の用具・用材と基本的な筆使いを学びます。  平仮名の単体、変体仮名、連綿の筆使いに慣れ、基本的な用筆法を習得します。  上代様の仮名の鑑賞をとおして、そのよさや美しさを感じ取り、書風を直感的にとらえ、作品の価値やその根拠について考えます。また、臨書活動をとおして、筆使いに慣れ、基礎的な表現の技能を身につけます。  仮名の書の制作（散らし書き）をとおして、意図に基づく構想と表現の工夫について学習していきます。  仮名の書に用いられてきた美しい加工を施した料紙の美について理解を深めます。 | 世界史の学習に関連します。  詩句や古典の選択により各自の個性を発揮します。  漢字の草書体から平仮名への発展は国語・日本史の学習に関連します。  仮名独自の美しさを感得します。 | 二学期期末考査 |
| 10 |
| 11 |
| 12 |
| 【課題・提出物等】  １　毎時間の学習内容は「学習記録」に記録します。  ２　提出前の途中経過（試書・中間まとめ・添削を受けたもの等）を記録としてファイルします。  ３　単元ごとに「学習記録」とファイルをもとに「学習のまとめ」を行い、自己評価します。  ４　課題に応じて作品を提出します。作品制作は数時間かけて完成させます。 | | | |
| 【二学期の評価方法】  １　提出作品、学習過程、「学習記録」等による学習過程、「学習のまとめ」の内容、期末考査を中心に、用具・用材の扱いを含め、主体的に学習に取り組む態度も含めて総合的に評価します。  ２　学期全体の評価は提出作品で４０％、活動の様子、「学習記録」による学習過程と「学習のまとめ」で３０％、期末考査で１５％、主体的に学習に取り組んでいる態度１５％の配分で行います。  ３　提出作品は、漢字の書については対象となる古典の特徴を表現できたか、制作作品については自分の意図したように表現することができたか、仮名の書については基本的な用筆が習得できたか、臨書においては対象となる古典の特徴を表現できたかが評価の規準となります。 | | | |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 三　学　期 | 三　漢字仮名交じりの書の学習  １　言葉を表現する  ２　感動や思いを表現しよう  ■作品の表現意図を考える  ■名筆に学ぶ表現の工夫  ■用具・用材の工夫  ■全体構成の工夫  ■作品の完成（鑑賞会を行う）  ３　漢字仮名交じりの書の表現と鑑賞  漢字仮名交じり文の成立とその書の変遷  書式の教室  書道史略年表  博物館や美術館に行ってみよう  日本・中国書道史参考地図  索引 | １ | これまでに学習した漢字および仮名の古典の学習をもとに、その表現を応用した漢字仮名交じりの書の制作を行います。  自らの感動や思い・感慨に応じて詩文を選定します。また、作品の表現形式を決めた上で、詩文を選定する場合もあります。  意図に基づいて構想し、用具・用材、全体の構成など工夫し、漢字と仮名の調和の方法を考えて表現していきます。表現の工夫にあたっては、名筆や現代の書の表現を参考として表現を深めていきます。他者との意見交換をとおして、表現を練り上げ作品を完成させていきます。  漢字仮名交じり文の成立とその書の変遷について理解を深めます。 | １年間の学習のまとめとして自己を主体的に表現することに取り組みます。 | 三学期期末考査 |
| ２ |
| ３ |
| 【課題・提出物等】  １　毎時間の学習内容は「学習記録」に記録します。  ２　提出前の途中経過（試書・中間まとめ・添削を受けたもの等）を記録としてファイルします。  ３　単元ごとに「学習記録」とファイルをもとに「学習のまとめ」を行い、自己評価します。  ４　課題に応じて作品を提出します。 | | | |
| 【三学期の評価方法】  １　提出作品、学習過程、「学習記録」等による学習過程、「学習のまとめ」の内容、期末考査を中心に、用具・用材の扱いを含め、主体的に学習に取り組む態度も含めて総合的に評価します。  ２　学期全体の評価は提出作品で４０％、活動の様子、「学習記録」による学習過程と「学習のまとめ」で３０％、期末考査で１５％、主体的に学習に取り組んでいる態度１５％の配分で行います。  ３　提出作品は、漢字仮名交じりの書の作品については自分の意図した表現をすることができたかという点が評価の規準となります。 | | | |
| 【年間の学習状況の評価方法】  下記の四つの観点から評価した一学期、二学期、三学期の成績を総合し、年間の学習成績とします。 | | | | | |

|  |  |
| --- | --- |
| 確かな資質・能力を身につけるためのアドバイス | ・書道の学習においては、感性をはたらかせて、直感的に作品のよさや美しさをとらえることが重要です。対象となる作品や古典に素直な気持ちで向かいましょう。  ・古典の書風や作品を用筆・運筆、字形、全体の構成からとらえ、その書風をもたらす根拠を考えるようにしましょう。  ・表現の技能の習得は、主として古典の臨書によりますが、ただ枚数を重ねるのではなく、１枚ごとに自分の解決すべき課題や問題点を見きわめ、それを解決するように学習を進めることが大切です。そのために「学習記録」は丁寧に書き、学習過程を振り返ることができるようにしておきましょう。  ・制作については「今、自分は何を表現したいか」という表現の意図を大切にし、詩文の選定、用具・用材を選択し、作品を構想し表現を工夫していきましょう。 |
| 授業を受けるにあたって守ってほしい事項 | ・授業はチャイムと同時に始めますので、用具を準備し着席を完了させて下さい。  ・用具は大切に扱い、特に、筆と硯はきれいに洗いましょう。  ・作品やワークシート等はファイルにきちんと整理しておきましょう。 |

**〔2〕評価の観点、内容および評価方法**

学習の実現状況は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点で評価する。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 評価の観点及び内容 | | 評価方法 |
| 知識・技能 | 書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。　　　　　　　　　　　　　　【知識】  書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表している。　　　　　　　　　　　　　　　【技能】 | 【知識】  ・作品ファイル  ・ワークシート  ・「学習記録」による学習過程  ・定期考査 |
| 【技能】  ・提出作品  ・作品ファイル  ・ワークシート  ・「学習のまとめ」の内容 |
| 思考・判断・表現 | 書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わいとらえたりしている。 | ・提出作品  ・活動の様子  ・「学習記録」による学習過程  ・作品ファイル  ・ワークシート  ・「学習のまとめ」の内容  ・定期考査 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。 | ・活動の様子  ・提出作品  ・作品ファイル  ・ワークシート  ・「学習記録」による学習過程 |

(1)「知識・技能」の評価について

書道の学習の過程をとおした知識及び技能の習得状況を評価する。また、すでに身につけている知識及び技能と関連づけたり、活用したりするなかで、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念を理解したり、技能を習得したりしているかも評価していく。各授業の中では、「知識」「技能」の習得状況を学習活動に応じて個々に評価していくが、学期末には「知識・技能」としてまとめて評価していくことになる。

「知識」は、表現及び鑑賞の両方の活動において評価し、書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解しているかを、ワークシートや学習の記録等から評価していく。

「技能」は、表現活動において、書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけているかを、提出作品や作品ファイル、活動の様子等から評価していく。

(2)「思考・判断・表現」の評価について

書道における知識及び技能を活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力等を身につけているかを評価する。

表現活動では、書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫しているかを、ワークシートや学習記録、活動の様子、作品等から評価していく。

鑑賞活動では、書のよさや美しさを感受し、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わいとらえているかを、ワークシート、学習記録、活動の様子等から評価していく。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

書道の表現及び鑑賞の活動において、知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているか、評価する。一定の学習のまとまりのなかで、表現と鑑賞ごとに評価するが、学期末には一体的に評価していく。

表現活動では自身の活動を振り返りながら試行錯誤を繰り返し粘り強く学んでいる様子や、構想を練り直したり表現の工夫を重ねたりしている過程を活動の様子や学習記録等から評価していく。

鑑賞活動では、作品のよさや美しさを感受し、分析的に作品をとらえようとしたり、書の伝統と文化の価値について主体的に考えたり、生活や社会における文字や書の意味や価値を考え、見方・考え方を広げたりしているかを、活動の様子や学習記録から評価していく。

**〔3〕担当者からのメッセージ**

|  |
| --- |
| ・「何ができるようになったか」を大切にしたいと思います。１時間の中での進歩、単元をとおしての進歩、学期をとおしての進歩、そして、１年間の学習をとおしての進歩が感じられるような学習への取り組みをして下さい。  ・一人ひとりの個性を生かし、これを伸ばしていくことを学習の第一目標としています。練習する古典や題材とする語句などについて、自分を最高に生かせる選択をしていきたいものです。  ・「書道Ⅰ」の学習をとおして、生涯にわたり書を身近な存在として感じられるようになってほしいと思います。 |